

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	サポートセンターつぼみ		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月1 日		～ R7年 5月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和6年 12月1 日		～ R7年 5月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年6 月1 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多彩なプログラムの提供が出来る	法人設立時より、5領域療育に取り組んできました。その為、多彩なプログラムと個々の苦手に取り組めるプログラムを16年の月日と経験で培ってきました。	療育を通して、楽しいだけでなく苦手なことにもチャレンジできるようにきっかけ作りを行い、達成感を感じられるような内容にしています。また、今後も興味関心が広がるようなプログラムの内容にしていきたい。
2	法人内で継続的に途切れのない支援が出来る	光陽福祉会では、未就学児、小学部、中学部、高等部、就労部門 暮らし部門、成年後見に至るまで途切れのない支援が受けられます。事業所間の情報共有に努め、実際に見学会を設けて先の見通しが持てるように支援を行っています。また、イメージしやすい伝え方に配慮しています。	保護者会や勉強会においても、学年や年齢に合わせた発信を行っています。例えば、就学に関する知識、就労に関する知識、暮らしに関する知識、成年後見に関する知識等を実施している。今後も現実の福祉制度について発信していきたい。
3	見える化	日々子どもたちの様子を、送迎時や電話、SKYPにて伝えていますが、また、インスタグラム等を毎日配信している。それでも、イメージがつかない方には、勉強会やオープン光陽(事業参観)等のイベントも合わせて開催し、見える化に努めている。	より擬態的に、より分かりやすさを念頭に、拘りを持たず方法を変えながら進めていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	辛い、有難いことに利用を希望して頂ける方が多くいる。1日の利用定員があり、お断りをしなければいけない現状がある。	当方の5領域プログラム活動に人気が高まり、利用希望が重なる事が多い。また、特に夏休み等の休み日課については、ほぼ毎日お断りをしている状況である。共働きが増え、障害児家庭の変化の中、家庭のニーズが高まっている。	利用定員とニーズ、福祉従事者の人数を把握しながら規模の拡張も視野に入れ検討していく
2			
3			